

安心して暮らしつつづけられる新潟市へ 全力

シニア半わり(高齢者のバス運賃半額制度)の改善を市に求める

「シニア半わり」は、65歳以上の方が「シニア半わりカード」を申し込むと新潟交通のバス運賃が半額になるという制度です。住民バス「にこにこ号」の運賃も半額になり、利用者に喜ばれています。

しかし、その受付が市役所分館で8月29日から9月2日の間に限定されており、それ以降は新潟交通のバスセンターか営業所でのみの受付とされていることから、「身近な場所で受付を」という声があがっていました。

市議団は8月22日、①申込み窓口は、期間延長も含め、区役所など市民の身近な場所で受け付けるよう改善すること②今後、高齢者の公共交通無料化も視野に検討を進めること—の2点を市に申し入れました。

市側は、身近な場所での受付について「そういう市民の声は聞いている」とし、「検討する」と答えました。



野本議員は、妊産婦や乳幼児などを含むすべての対象者を把握し、それに対応した福祉避難所の増設、整備、職員確保が必要と指摘しました。

市側は「対象者数の把握方法や福祉避難所の職員確保などについて、関係機関と連携しながら検討を進め、適正な福祉避難所の確保に努める」と答弁しました。

熊本地震では、生まれたばかりの赤ちゃんが車中泊で沐浴できなかったり、車中泊のうち高齢者が8割を占めるなど、福祉避難所はあっても機能しなかった原因はマンパワー不足だと言われています。現在、新潟市の福祉避難所は特養ホームなど69施設、市が福祉避難所の対象としているのは、各町内で災害時要援護者として登録されている約2万3千人だけです。

熊本地震を教訓に 福祉避難所の整備を



野本孝子

野本孝子議員は、市民の切実な声を取りあげて議会質問するとともに、地域のみなさんとともに市役所や区役所に働きかけ、要望の実現に力をつくっています。

水俣病判決に控訴した 市長の姿勢をただす

野本議員は6月議会で、水俣病行政訴訟判決に対して、市長が7人を水俣病と認定する地裁判決を不服として控訴したことについて質問しました。

長年症状に苦しみながら、周囲のいわれなき批判を恐れ隠してきた原告の方々が、勇気を奮い訴えた思いを受けとめるなら、控訴すべきでなかったと市の姿勢をただしました。

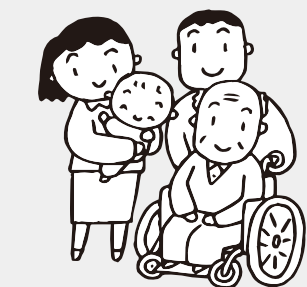
市長は「他の裁判で今回と異なる結論が出た場合、さらなる混乱を招く結果となりかねないため、上級審での判断を仰ぐことが本市としての責務であると考え、控訴した」と答弁。原告の気持ちに寄り添わない市長の姿勢が明らかになりました。



さらなる介護保険の 改善にストップを

日本共産党議員団は9月議会で、他会派に働きかけ「さらなる介護保険の負担増と介護給付外しに反対する意見書」を共同提案。野本孝子議員は意見書案にたいする賛成討論を行いました。

野本議員は、政府が2018年度から介護サービス利用料の2割負担の対象者を拡大し、「要介護1、2」の生活援助、福祉用具貸与などを保険給付から除外しようとしていることを厳しく批判。利用者やその家族に苦



難と犠牲を強いる介護保険改善を中止させようと訴えました。意見書案は、自民党系会派と公明党などの反対多数で不採択となりました。

